

除染への
質問・指摘 にお答えします

住宅裏の居久根の伐採について
(当初は伐採しないとの国の方針でした。)

原則として、敷地内の建物に近接している軒より樹高の高い常緑樹について伐採の対象とし、個々の家屋の状況を踏まえて伐採範囲を決定します。伐採樹木については、補償の対象となります。ただし、居久根の伐採による建物などへの風や雪の被害は補償の対象になりません。また、伐採した樹木の枝葉は搬出しますが、幹は住居等の敷地内に現場保管をお願いします。なお、場所によっては伐採できない場合もありますので、ご相談させていただきます。

農地の除染方法について

農地の除染方法は村としては可能な限り表土はぎ取りとなるよう、早急に国と村で構成する協議の場で協議し、住宅周りの農地除染が始められるよう対応します。
当面の除染同意取得については、宅地及び道路、住宅周りの森林について進める予定です。農地の除染方法等が決定した時点で住宅周りの農地の除染同意を取得し、除染を進めます。

仮置き場及び仮々置き場の設置状況について

小宮沼平地区の国有林地の仮置き場の造成工事は、7月下旬から第1工区着工、10月末完成予定ですが、その他の工区については、除染廃棄物の搬入開始時期が来年の秋になる予定です。
また、村全体の除染廃棄物発生量の見込みから見ると、小宮沼平地内の国有林地内だけでは面積が足りない状況になりそうのため、現在、早期に供用可能な新たな仮置き場の確保を進めているところです。
このため、仮置き場への搬入が出来るまで、行政区ごとに仮々置き場の設置について、ご理解とご協力をお願いしているところです。
さらに、仮置き場設置と並行して、除染で発生する廃棄物の減容化についても検討してまいります。

村は国との間で除染での懸案事項について粘り強く折衝を行いました。その結果をお伝えします。

損壊家屋の解体について

住居の除染はできる限り実施し、国が除染することが困難と判断した納屋や畜舎等は、平成24・25年度では除染は実施しません。ただし、その建物が周辺の空間線量率を低減させるため、解体しか方法がない場合は、所有者の判断で解体することができます。その際の費用の全部又は一部は東京電力の財物賠償とは別に東電賠償にて支払い弁償ができるよう、現在、国で調整を行っております。なお、解体で発生した廃材等の処理は国で検討しております。

除染による空間線量の目標値について

村は、除染作業に当たって丁寧により良い除染をし、極力年間5ミリシーベルト(1時間当たり1マイクロシーベルト)に近づけるよう努力することを当面の目標として国に表明させました。
なお、国は今後進める除染で、長期的目標としては、追加被ばく線量1ミリシーベルト以下になることを目指しております。

農地除染の効果を公表します

農林水産省が5月から村内3カ所で行っている農地除染対策実証事業の中間とりまとめ結果が公表されました。今回の公表データは、全て7月31日時点でのデータ解析終了箇所の平均値となります。(データ・写真提供：農林水産省)

【作土層の放射性セシウム濃度】

除染方法	地区名	施工前 (Bq/kg)	施工後 (Bq/kg)	低減率 (%)
表土削り取り (最低3~5cm)	長 泥	19,780	1,610	92
	小 宮	9,620	1,270	87
	草野向押	11,790	870	93

【ほ場面での空間線量率】

除染方法	地区名	施工前 (μSv/h)		施工後 (μSv/h)		低減率 (%)
表土削り取り (最低3~5cm)	長 泥	1m	8.66	1m	2.32	73
		1cm	5.73	1cm	0.94	84
	小 宮	1m	5.23	1m	1.30	75
		1cm	3.75	1cm	0.57	85
	草野向押	1m	4.35	1m	0.84	81
		1cm	3.27	1cm	0.34	90

※空間線量率は、鉛による遮へい付きで測定(地上1mについては遮へいなしで測定)

除 染

美しい飯館村を取り戻すために



▲バックホーでの表土削り取り



▲スキマー工法での表土削り取り

こころの
ぽけっと

「ここが飯館中学校」

2学期から飯館中学校は飯野町の旧工場を改築して開校できました。これではまず一安心です。
村が全村避難と言われた時、すぐさま頭をよぎったことは「子どもたちをどうするか」でした。気が付けば古川侯町長に「何とかお願いしたい」と電話の受話器を握っていました。お陰をもって川俣町で幼・小・中とも間借りではありますが学びのスタートを切れました。しかし、子どもたちの教育環境が不十分であることには変わりはありません。何とかしなければとの思いから、今の小学校の土地の地主さんの所へ何度も足を運んだことが思い出されます。
幼稚園・小学校は以前の園舎・校舎で出発できるようになりましたが、中学校が残ってしまいました。昨年の秋ごろ、飯野の方との懇談中に、その悩みを打ち明けたところ、「村長、広い空き工場があるよ」ということで、今回の場所が見つかったのです。東京の本社はもとより、関係者との交渉を何度重ねたか分かりません。使用していない建物でしたが、見違えるほどの素晴らしい校舎になりました。議会からも子どもたちにはお金は惜しまないようにとのご理解があつてのことです。
原発事故さえなければあの飯館中で学んでいたはずです。それで、飯館中の全景を多目的ホールの壁に大きくプリントしてもらいました。「ここも飯館中だよ」との思いが生徒たちに少しでも伝わり、落ち着いて勉強してもらいたいということからです。
中学生諸君に、思いをくんでももらえればうれしい限りです。

平成24年8月25日

飯館村長 菅野 典雄